

実践校に関する事項		
学校区分	学校名	学校長名
小学校	白浜町立 白浜第一小学校	山本 亜矢子
学校所在地		
〒 649 - 2211 和歌山県西牟婁郡白浜町190番地 Tel 0739(42)2330 fax 0739(43)7415 e-mail		
担当者名		役職名・担当教科
遠藤 隼人		5年A組担任
<p><b>〔学校の概要〕</b></p> <p>本校は、校区に白良浜や円月島などの観光地を有し、近くには全国的に有名な動物公園等の遊興施設もあるため、春から秋にかけての観光シーズンには、日本各地から大勢の観光客が訪れる。また、近年では海外からの観光客も増加している。保護者の中には、宿泊施設や飲食業などの観光産業に携わる方が多く、時期によって変化する町の様子を感じながら子どもたちは生活している。</p> <p>本年度は児童数220名、学級数11、教職員数19名で、児童は明るく素直で、児童会が呼び掛ける「あいさつ運動」に意欲的に取り組んでいる。</p>		
研究実践に関する事項		
対象者児童・生徒	学習支援者等（延人数）	主な活動場所
学年 5年生 44名	職員 3名	本校、和歌山県世界遺産センター、熊野古道
実践研究テーマ		
世界文化遺産の学習や見学を通して、地域を愛する子を育てる		
実践教科等名	単元名	
総合的な学習の時間	和歌山県や地域の産業	
〔キーワード〕 世界遺産・観光・熊野古道・		
<p><b>〔単元目標〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県の産業について、調べたり聞いたりする活動を通して、その特徴や人々の願い・工夫を知るとともに、和歌山県の産業について自分なりの展望を持つことができる。</li> <li>調査活動では、友だちと協力して学習が進められるようにする。</li> <li>調べたり体験したりしたことをまとめ、発表することを通して表現力を育てる。</li> </ul>		
<p><b>〔学習に当たった全学習時間数（世界遺産学習に関わる時間数及び 学習活動名／教材名）〕</b></p> <p>全体 25 時間 （「和歌山県や地域の産業」 15 時間 ）</p>		
<p><b>〔地域および文化財管理者等との連携の実施状況〕</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>和歌山県世界遺産センター</li> <li>和歌山県世界遺産マスター</li> </ul>		

実践校に関する事項			
〔单元指導計画概要〕			
	主な学習活動	学習への支援	評価方法等
1	・熊野古道について学習する。	・図書室の本や、インターネット、世界遺産高野地域協議会が作成した『小学生用副読本』などを用いて調べさせる。	・発言 ・ワークシート
2	・世界遺産入門プログラムを受ける。 ・世界遺産マスターさんに熊野古道について話を聞きながら、熊野古道を歩く。	・世界遺産について理解を深めたり、実際に熊野古道を歩いたりすることで、昔の人々の思いを考え、受け継いでいく自分たちにできることを考えさせる。	・ワークシート ・発言
3	・学んできたことをまとめ、体験から考えたことを話し合う。	・自分たちが地域の文化を守り、先人の思いを受け継いでいく大切さに気付かせる。	・ワークシート ・発言
4	・世界遺産について、さらに知識を深める。	・センターで学んできたことから、熊野古道だけでなく、日本や世界各地の世界遺産について興味を持たせ、調べさせる。	・ワークシート ・発言
5	・学習をふり返り、資料をまとめ、発表する。	・他の学年に学習したことが伝わるように、資料のまとめ方を考えさせる。	・ワークシート ・発言 ・模造紙
〔单元学習の成果と課題〕			
<p>(成果) ・世界遺産に登録されることの意味を知り、和歌山県に住む自分たちが担う役割について理解できた。また、自分たちの地域の文化財への関心も高まった。</p> <p>・世界遺産マスターさんの話をよく聞き、実際に体験して得た情報を、自分なりに取捨選択して模造紙にまとめ、発表する力が高まった。</p> <p>(課題) ・遠方であるため、現地に何度も足を運ぶことができない。そのため、十分な事前学習を行い、情報収集の明確なめあてを持たせる必要があった。</p>			
〔世界遺産学習の効果〕			
<p>・世界遺産を身近に感じ、自分たちのこれからの生活と結びつけることができた。</p> <p>・実際に熊野古道を歩くことで、落ちているごみに目を向けた児童が多かった。自分たちの地域にある観光地とつなげて考え、保全活動や環境問題への意識が高まった。</p> <p>・5年生の社会科の学習にも生かすことができた。</p>			
〔世界遺産学習の今後の方向性及び改善点について〕			
<p>・世界遺産という、子どもたちにとって馴染みのない条約を身近に感じさせ、世界遺産条約の意義だけでなく、自分たちの住んでいる地域の文化財、景勝地なども、守り受け継いでいくという、次世代の役割を自覚させることが大切である。</p>			

様式 2



「熊野古道」と呼ばれているけど、本当は「紀伊山地の霊場と参詣道」ということが分かりました。また、文化遺産、自然遺産だけでなく、複合遺産についてもよく分かりました。森脇マスターと一緒に歩いていると本宮大社まであつという間でした。でも帰りのバスでは足が痛くなりました。

高い所まで登っていくのはとてもしんどかったです。でも、紅葉のきれいな葉がたくさん落ちていて、きれいな景色が見られたのでうれしかったです。道の途中で、世界遺産なのにたこ焼きのごみが落ちていました。もっとマナーを守った方がいいのと思いました。



実際に歩いてみると、熊野古道はとても険しい道でした。でも僕たちが歩いたルートはほんの一部だと知って、何日もかけて歩いた昔の人はすごいなあと思ったし、どんなことを考えていたのだろうと思いました。これからも世界遺産を大切にしたいと思いました。

自然遺産、文化遺産、複合遺産の他に、存続の危機にさらされている世界遺産があると知ってびっくりしました。今日歩いてみて本当に歴史のある道だと分かったので、私たちは熊野古道を大切に守っていきたいと思いました。楽しく学びながら歩いて気持ちよかったです。



熊野古道は色々な道とつながっていることが分かりました。色々な場所から色々な人が通っていたのだなと思うと、伝統のある道だと思いました。またルールを守って支えあいながら歩いていたことを聞いて、優しさがいっぱい感じられる道だと思いました。見学に行って良かったです。